

## I 予算の規模

(単位:千円)

区 分	令和2年度	令和元年度	増減額	増減率
一般会計予算規模	68,640,000	66,410,000	2,230,000	3.4%

一般会計の予算規模は、686億4000万円で、前年度当初予算(664億1000万円)と比較すると、22億3000万円の増(+3.4%)となっています(国の補正予算活用分を含む一体的予算はP9参照)。

### — 本市の財政事情と令和2年度予算編成 —

市財政の状況は、平成30年度決算において、市債残高の減少や基金の増加などストック面での一定の改善がありますが、財政構造の弾力性を判断する経常収支比率(P11)が93.8%と高まり、また、社会福祉関係経費の増加や人口の減少傾向を考慮すると、今後も厳しい局面が続くものと予想しています。

こうした中、令和2年度は、「第2期宇部市まち・ひと・しごと創生総合戦略」がスタートする年であり、本戦略に掲げた基本目標の達成による地方創生のさらなる充実・強化を図るとともに、希望あふれる未来へ向け、SDGs未来都市としての本市の持続的な発展に繋げていく重要な年となります。

このため、行政の質の向上や広域での都市間連携、実施主体の最適化等を推進するとともに、主な一般財源が伸び悩む中で、国の地方創生推進交付金等を積極的に活用するなど、「第2期宇部市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を着実にスタートさせる予算案を編成しました。

この結果、当初予算の規模としては、過去最大となる686億4000万円、地域経済への波及効果が期待される投資的経費(P8)は、令和元年度を約19億円上回る約89億円を計上する積極的な予算となっています。

一方で、市債残高(P12)は、本庁舎建設工事の本格化による影響もあり、令和元年度末残高見込から約18億300万円増加することとなりますが、本庁舎建設事業債を除くと、令和元年度末から約10億700万円減少させており、将来負担の軽減及び財政運営の持続性に留意したところです。

以上のような考えのもと編成した本予算の執行を通して、市民福祉の向上を図るとともに、地域経済の成長の後押しとなるよう、多様な主体との連携・共創を高めながら、オール宇部市で「元気都市うべ」の実現を推進していきます。